

林木育種センターでは、都道府県等に対し優良品種等の種苗の配布や採種園等の造成・改良に関する講習会や技術指導等を行っています。今回は、令和2年9月、10月に実施した講習会や技術指導をご紹介します。

9月30日、岐阜県中津川市の東濃桧採種園で岐阜県と愛知県の林木育種担当者、白鳥林木育種事業地、東濃桧採種園を管理する職員を対象にヒノキ採種園の管理講習を行いました。室内でエリートツリーと特定母樹の選抜状況と岐阜県への原種配布状況、採種園管理の概要説明後、屋外で着花促進処理の手順確認と注意点の説明、また、断幹剪定等を計画している区域の採種木を利用して現場担当者から意見を聴きながら、採種と草刈の双方の作業効率性を両立するような形で樹形誘導について指導を行いました(写真1)。

翌日の10月1日は、愛知県豊田市のセンダン試験植栽地で愛知県、愛知県内の農林水産事務所、森林・林業技術センター、豊田森林組合、岐阜県林木育種担当者を対象にエリートツリーと特定母樹の選抜状況と愛知県への原種配布状況、センダンの育成方法、また、下山林木育種地で少花粉スギの生産に向けた人工交配について、交配がしやすい採種木の仕立て方や交配するタイミングなどの技術指導を行いました(写真2)。

この他、関東・中部ブロック会議において、千葉県から質疑のあったマツ採種園の管理について、10月19日に上総試験園内の採種園で球果採取と整枝剪定のタイミングや施肥方法などの技術指導を行いました(写真3)。

今後も都県等の要望に応じた林木育種事業に関する講習会や技術指導をわかりやすく、効果的に実施できるように努めていきたいと考えています。



写真1 東濃桧採種園



写真2 下山林木育種地



写真3 上総試験園内の採種園